『中国地区英語教育学会研究紀要』No.19（1989.10.25）

高校生の英語意識調査[1]

広島大学教育学部英語教育研究室
松村幹男・三浦省五・高橋俊章
森　茂・柳瀬陽介・御手洗　靖
山下淳子・松浦伸和・今井裕之
水野康一・池辺裕司

1．はじめに

本発表「高校生の英語意識調査」は，広島大学英語教育研究会が1967年，1977年に『英語教育研究』に発表した「高校生の英語学習意識」の後をうけるものである。今回の調査で約10年毎の高校生の英語意識の20年にわたる変遷がわかるわけであるが，前回，前々回の調査との比較は，他所[2]で発表する故，本稿では今回1988年度の結果のみを報告する。網羅的な全報告は『英語教育研究』第32号に掲載予定なので，本稿は概略報告のみとなる。

なお，こういった調査は，何にもまして御協力してくださった各高校の方のご好意があってはじめて可能なことである。ここでは，ご協力頂いた高校の名前を列挙することはしないものの，この場を借りて広島大学英語教育研究室からの謝意を表明したい。

2．方法

質問項目は，英語学習の必要性に関する問A17問，英語学習の技能，ムード，気力に関する問B15問，全体的な関心に関する問C４問から構成されている。質問の中には，Ａ４「外国の書物はほとんど翻訳で読めるから，英語をやる必要はない。」やA11「英語を知らなくても日常生活に困らないから英語を勉強する必要はない。」といったように，ひとつの質問の中に複数個の命題があるといった，必ずしも好ましくないものもあったが，今回の調査の主目的は10年，20年前との比較であったので敢えて問題文は変えず，変更は同和的にみてどうかと思われる語句のみにとどめた。

このように従来の質問項目に大きな変更は施さなかったものの，今回の調査では新たに学習背景として，海外体験・学校外学習についての質問を加えた。

回答の仕方は，その質問文に対する賛否を５段階のうちのどれかで選んでもらうようにした。後でわかったことであるが，回答者の気持ちにもっとも合う３項目を選ぶ，０の項目は少々紛らわしい配置となってしまった。

調査対象の決定については，本来ならば全国の住民票を基にした個人ベースのランダムサンプリングをするべきなのかもしれないが，これは費用・時間の面からみて余りにも非現実的なので，学校をベースに調査対象を決定した。すなわち『昭和62年度学校基本調査報告書』をもとに各科別の高校生の比率をもとめ，その比率をベースにランダムサンプリングを施した（層化抽出法）。その際の台帳は『昭和63年度全国高等学校総覧』で，ページ数及びページ内の順番の２つの数字をコンピュータープログラムで乱数を作って決定した。

英語学習についての調査(質問用紙)

広島大学教育学部英語教育研究室

英語学習について、あなたが日頃考えたり、感じたりしている事をおたずねしたいと思います。以下の項目について答えて下さい。これは正しい答え、間違った答えということはありません。ただありのままにあなたの気持を表して下さればよいのです。別紙回答用紙の該当する欄に○印を記入して下さい。また、成績にもいっさい関係ありません。

問 A

1. これからの人間はせめて簡単な英語ぐらいは教養としてぜひ知っておく必要がある。
2. 社会に出てから自分が英語を用いることは必ずあると思うから、英語を勉強しておく必要がある。
3. 私が英語を勉強しているのは、単に大学入試または、就職試験のためだけではない。
4. 外国の書物はほとんど翻訳で読めるから、英語をやる必要はない。
5. これからの人間は国際社会において大いに活躍するために、英語をマスターしておかなければならない。
6. 英語は数ある教科のなかのひとつにすぎないので、大して重要とは思わない。
7. これからは英語以外の外国語が広く用いられるようになるかもしれないから、英語はやらなくてもよい。
8. 英語を用いる職業がだんだんふえてくるから、英語を勉強する必要がある。
9. わが国の文化水準を考えれば、英語の勉強は不要である。
10. 私は大学入試または、就職試験に合格するためだけに英語を勉強する。
11. 英語を知らなくても日常生活に困らないから英語を勉強する必要はない。
12. 英語は論理的な言葉なので、頭の訓練をするのに必要である。
13. 英語は将来必要だと思う人だけがやればよい。
14. 英語は世界共通語として使われているのだから、勉強をしておく必要がある。
15. 母語(母国語)に対する感覚をするどくするために、外国語のひとつである英語を勉強すべきである。
16. われわれは母語(母国語)を持っているので、英語など勉強する必要はない。
17. 国際理解、国際親善のために英語を勉強すべきである。

◎ 以上17の項目のなかで、あなたの気持を最もよく表しているものを3つ選んで、※の欄に○印を記入して下さい。

問 B

1. 英語が上手になってもあまり意味はないと思う。
2. 西洋人や英語を見ただけでゾッとする。
3. 英語ができるのは何となくカッコいいと思う。
4. ぜひとも英語に強くなりたいと思う。
5. 英語を使うのは何となくきざっぽい感じがする。
6. 英語を勉強して外国へ行ってみたいと思う。
7. 英語ができれば、英語を知らない人に対して優越感をおぼえる。
8. 英語が自由に話せたらよいと思う。
9. 英文科の学生と聞くと何となくスマートな感じがする。
10. 英語は勉強したくないが、仕方がないと思っている。
11. アメリカ映画などを見て、字幕に頼らないでわかるようになりたい。
12. 英文が辞書なしで読めるようになりたい。
13. どうせ英語を少しばかり勉強してもマスターできないと思う。
14. 英語で手紙が書ければすばらしいと思う。
15. 英語など勉強しなくてすむ社会が来てくれたらよい。

◎ 以上15の項目のなかで、あなたの気持を最もよく表しているものを3つ選んで、※の欄に○印を記入して下さい。

問 C

回答用紙の問Cの欄の指示に従って記入して下さい。

英語学習についての調査(回答用紙)

広島大学教育学部英語教育研究室

1. あなたの学年: 第_____学年
2. 性　　別: 1.男　2.女　(1か2を○で囲んで下さい)
3. あなたは外国へ行ったことがありますか。(1か2を○で囲んで下さい)
   1. 行ったことがある。　2. 行ったことはない。
4. 3で(1. 行ったことがある)を選んだ人にたずねます。
   どのくらいの期間外国に滞在しましたか。(1～5のうちの1つを○で囲んで下さい)
   1. 1カ月以内　2. 1カ月以上6カ月以内
   3. 6カ月以上1年以内　4. 1年以上2年以内
   5. 2年以上
5. 学校以外であなたが行っている英語学習について全て○で囲んで下さい。
   1. 特にしていない(学校の勉強だけ)
   2. 塾・予備校　3. 英会話学校
   4. 家庭教師　5. 通信添削
   6. ラジオ・テレビ　7. その他(　　)

質問用紙を見て、下の該当する欄に○印を記入して下さい。

問 A 番号	5 強く賛成	4 賛成	3 どちらとも言えない	2 反対	1 強く反対	0 ※
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						

問 B 番号	5 はっきりそう思う	4 大体そうだと思う	3 どちらとも言えない	2 そうだとは思わない	1 決してそうだとは思わない	0 ※
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

質問用紙の問A・問Bで示した例文以外に、あなたの気持をぴったり表わす言い方があれば、それを下の空白に書いて下さい。

問 C

英語学習(学校での授業、家庭学習などすべてを含む)に対するあなたの感じをありのままに、次の尺度にあてはめて○で示して下さい。

		5	4	3	2	1	
1	興味あり						興味なし
2	楽しい						楽しくない
3	おもしろい						おもしろくない
4	好きだ						嫌いだ

3．結　果

3．1　問A

問Aは，高校生が英語学習に対してどのような態度をもち，どの程度，学習の必要性を感じているかをみるものである。

賛成，強く賛成の項目に全体の70％以上が属している問が，Ａ１「これからの人間はせめて簡単な英語ぐらいは教養としてぜひ知っておく必要がある。」，A14「英語は世界共通語として使われているのだから，勉強をしておく必要がある。」の２項目。50％以上が賛同している項目は，Ａ２「社会に出てから自分が英語を用いることは必ずあると思うから，英語を勉強しておく必要がある。」，Ａ５「これからの人間は国際社会において大いに活躍するために，英語をマスターしておかなければならない。」，Ａ８「英語を用いる職業がだんだんふえてくるから，英語を勉強する必要がある。」，A17「国際理解，国際親善のために英語を勉強すべきである。」となる。これらのことから，高校生は，国際化する社会で英語を実用的に使うことに，目標をおいていることがわかる。

またこれらの項目間の相関を見てみるとＡ１「これからの人間はせめて簡単な英語ぐらいは教養としてぜひ知っておく必要がある。」は，Ａ２，Ａ５，A14といった国際社会における実用性志向と高い相関（順に.53，.51，.54いずれも危険率0.1％以下）を持っていることから，高校生の「教養としての簡単な英語」には実用性が高いものが想定されていると推測することができる。

しかし，一方Ａ３「私が英語を勉強しているのは，単に大学入試または，就職試験のためだけではない。」，A10「私は大学入試または，就職試験に合格するためだけに英語を勉強する。」，A11「英語を知らなくても日常生活に困らないから英語を勉強する必要はない。」においては，賛成意見が50％を越えなかったことを見ると，これらの「国際社会における，実用英語志向」も少し，割り引いて考えなければならないのかもしれない。

反対，強く反対の項目に50％以上が属するのはＡ４「外国の書物はほとんど翻訳で読めるから，英語をやる必要はない。」，Ａ６「英語は数ある教科のなかのひとつにすぎないので，対して重要とは思わない。」，Ａ７「これからは英語以外の外国語が広く用いられるようになるかもしれないから，英語はやらなくてもよい。」，Ａ９「わが国の文化水準を考えれば，英語の勉強は不要である。」，A16「われわれは母語（母国語）を持っているので，英語などを勉強する必要はない。」であった。Ａ６に対する反対からは高校生の英語に対する積極的なとりくみが伺えるし，Ａ９，A16に対する反対からは，大半の高校生は夜郎自大の ethnocentrism に陥っていることはないことがわかる。しかし，残念ながらＡ４，Ａ７には，命題が複数個あり，この反対意見から高校生の社会言語学的英語観に関して伺い知ることは困難である。

賛成・反対意見ともに過半数を越えることのなかった項目は，前述のＡ３，A10，A11のほかにA12「英語は論理的な言葉なので，頭の訓練をするのに必要である。」，A15「母語（母国語）に対する感覚をするどくするために，外国語のひとつである英語を勉強すべきである。」，A13「英語は将来必要だと思う人だけがやればよい。」，がある。英語の知的陶冶性および，平泉提案にもあった英語の希望選択性に関しては高校生の意見は別れていると言えよう。

男女それぞれの傾向は概ね同じであるが，反対が50％を越える項目が，男子でＡ７，Ａ８，A16なのにたいして，女子の場合Ａ４，Ａ６，Ａ７，Ａ９，A10，A16となっている。このうちA10「私は大学入試または，就職試験に合格するためだけに英語を勉強する。」は，男女の進学率の差に起因するかとも考えられる。

学年でみてみると，これもまた概ね同じ傾向を示しているが，１，２年生で50％以上の反対を示していたＡ４「外国の書物はほとんど翻訳で読めるから，英語をやる必要はない。」，Ａ６

「英語は数ある教科のなかのひとつにすぎないので，たいして重要とは思わない。」は，反対が3年生で50%以下となっている。

3．2　問B

次に英語学習における技能，ムード，気力について調べた問Bであるが，全体を概観すると，好意的か否か判断しにくいB７を除く14項目中，10項目において50%以上が好意的に反応している。そのうち７項目は70%以上の好意的反応がみられている。全体的には，英語学習に対して好意的な意識をもっていると言えよう。

４技能についてみると，Ｂ８スピーキング（88.6%），B12リーディング（77. 2%），B11ヒアリング（70.1%），B14ライティング（69.9%）の順に好意的反応がみられている。スピーキングの突出が目につくところである。しかし，後で考えるにB11「アメリカ映画などを見て，字幕に頼らないでわかるようになりたい。」，B14「英語で手紙が書ければすばらしいと思う。」だけで，ヒアリング，ライティングを正しく反映しているかについては，再考が必要なのかもしれない。

気力についてみると，Ｂ４「ぜひとも英語に強くなりたいと思う。」（75.0%），Ｂ１「英語が上手になってもあまり意味がないと思う」（−73.6%），それからかなり下がってB10「英語は勉強したくないが，仕方がないと思っている。」（−39.9%），B13「どうせ英語を少しばかり勉強してもマスターできないと思う」（−33.5%），B15「英語など勉強しなくてすむ社会が来てくれたらよい。」（−33.2%）の順となっている。このことから，高校生は英語の習得そのものには価値をみいだし（Ｂ１），またそれを望んでいる（Ｂ４）ものの，英語の学習自体については３分の１程度しか好意を示しておらず（B10，B15），さらに今の学習で自分が英語がマスターできると思っている者も３分の１程度であることが伺える。また，問題間の相関を見てみると，Ｂ４「ぜひとも英語に強くなりたいと思う。」と思う者は，４技能を示す，Ｂ８，B11，B12，B14や，外国へ行きたいとするＢ６と高い相関を示しており（順に.63，.53，.60，.51いずれも危険率.01%以下），強い動機づけをもっている者は，未来の自分の学習の成果に対して具体的なイメージを持っていることが推測される。

ムードに関してはさすがにＢ２「西洋人や英語を見ただけでゾッとする」，Ｂ５「英語を使うのは何となくきざっぽい感じがする。」に賛同したのはそれぞれ8.8%，16.8%と多くなかった。Ｂ３「英語ができるのはなんとなくカッコいいと思う」，Ｂ６「英語を勉強して外国へ行ってみたいと思う。」がそれぞれ，62.4%，71.6%の賛成意見を受けてはいるが，Ｂ９「英文科の学生と聞くとなんとなくスマートな感じがする」については，意見が別れた。

男女間の差についてみると，４技能では全て女子の方が好意的反応が高くなっている。特にライティングでは21.6%という大きな差がでている。これはB14「英語で手紙が書ければすばらしいと思う。」の「手紙」というところで，差が出たのかもしれない。

気力においても，女子の方が高い好意的反応を示している。男子はB10「英語は勉強したくないが，仕方がないと思っている。」，B15「英語など勉強しなくてすむ社会が来てくれたらよい。」，B13「どうせ英語を少しばかり勉強してもマスターできないと思う」に，それぞれ32.7%，34.4%，37.6%が賛成している。男子の約３分の１が英語学習に対して無気力，あきらめムードにあるといえよう。

ムードに関しても男子はＢ２「西洋人や英語を見ただけでゾッとする」，Ｂ６「英語を勉強して外国へ行ってみたいと思う。」において非好意的反応がそれぞれ1.93倍，1.98倍と女子のほぼ２倍の高さを示している。また，Ｂ３「英語ができるのはなんとなくカッコいいと思う」では54.0%

対59.0%で女子が，Ｂ５「英語を使うのは何となくきざっぽい感じがする。」に関しては19.8%対13.7%で男子の方が高く賛成している。英語を使うことに対して，女子は「かっこいい」ととり，男子は「きざっぽい」とうけとっているのかもしれない。

学年間の変化ではＢ３「英語ができるのはなんとなくカッコいいと思う」，Ｂ７「英語ができれば，英語を知らない人に対して優越感をおぼえる。」，Ｂ10「英語は勉強したくないが，仕方がないと思っている。」において，学年が上がるにつれ，賛成意見が多くなっている。受験の影響がここに現れているのかもしれない。

３．３　問Ｃ

英語学習の「興味」，「楽しさ」，「おもしろさ」，「好き，嫌い」について調べた問Ｃについての結果は次の通りである。

英語学習に興味ありと答えたものが約半数の48.7%いるのに対して楽しい，おもしろい，好きだと答えたものはそれぞれ20.7%，22.2%，30.6%。英語学習に興味があるからといって，必ずしも英語学習が楽しく，おもしろく，好きだとは限らないといえよう。興味があるというのは，Ｂ４「ぜひとも英語に強くなりたいと思う。」との相関（.52）で，他の楽しい，おもしろい，好き，との相関（.35，.35，.42）をひきはなしている。情的なものより，知的な興味の方が動機づけとより結び付いているのかもしれない。

楽しくない，おもしろくない，嫌いだと非好意的態度を示したものは，それぞれ36.1%，35.8%，35.4%であり，全体の３分の１強の生徒が現在の英語の授業に不満を抱いていることがわかる。

男女差については，やはり女子の方が４項目全てにおいて好意的で，その差はそれぞれ1）13.7%，2）17.2%，3）15.9%，4）13.0%となっている。

学年別の変化にはあまり大きなものはみられないものの，非好意的態度に関しては４項目全てにおいて３年生がもっとも高い数字を示しているのが目につく。

３．４　学習背景との関わり

学校外学習の違いでグループ分けをして，考察してみたい。回答用紙についていた調査項目の結果により，３グループすなわち，英会話・ラジオテレビ群（168人），塾・予備校・家庭教師・通信添削群（603人），特に何もしていない群（2614人）を抽出した。次に，グループ別に反応を１～５で数量化し，平均値を比較した。全体的傾向としては，Ａ12「英語は論理的な言葉なので，頭の訓練をするのに必要である。」，Ｂ３「英語ができるのはなんとなくカッコいいと思う。」，Ｂ９「英文科の学生と聞くとなんとなくスマートな感じがする。」を除く全ての項目に対して，英会話・ラジオテレビ群，塾・予備校・家庭教師・通信添削群，特に何もしていない群の順で英語学習に対して好意的な反応が得られた。考察するに，受験とは必ずしも重ならないと思われている英会話・ラジオテレビによる学習は，塾・予備校・家庭教師・通信添削などと比較して，学習者の主体的な学習意欲が必要だと考えられる。学習者の主体性，能動性が意識の高さに表れているのかもしれない。

３グループに共通して肯定的反応の強かったものを挙げると，Ｂ８「英語が自由に話せたらよいと思う。」，Ｂ３「英語ができるのはなんとなくカッコいいと思う。」，となる。スピーキング上達に対する志向はどのグループにも強く，受験勉強している生徒は読み書きだけの能力をのばしたいと思っているわけではないことがわかる。残りの３技能では，やはり英会話・ラジオテレビ群でヒアリングの得点が高い。

３グループに共通して否定的反応が強かったものはＢ１「英語が上手になってもあまり意味が

ないと思う。」，Ｂ２「西洋人や英語を見ただけでゾッとする。」である。Ａ７「これからは英語以外の外国語が広く用いられるようになるかもしれないから，英語はやらなくてもよい。」については塾・予備校・家庭教師・通信添削群，特に何もしていない群で否定的反応の３位に位置しているが，英会話・ラジオテレビ群ではＢ10「英語は勉強したくないが，仕方がないと思っている。」が，３位に位置している。英会話・ラジオテレビ群は英語学習に対して主体的に取り組んでいることがこれからも伺える。また英会話・ラジオテレビ群に特徴的なこととして，Ａ４「外国の書物はほとんど翻訳で読めるから，英語をやる必要はない。」に対する反対の仕方が弱い（９位：他のグループはそれぞれ６位）ことが挙げられる。英会話・ラジオテレビ群は，翻訳で最低限の内容の理解はできても，できれば英語で理解したいと考えているのかもしれない。

３グループ間で反応差がみられなかったものはＡ12「英語は論理的な言葉なので，頭の訓練をするのに必要である。」，Ｂ３「英語ができるのはなんとなくカッコいいと思う。」，Ｂ９「英文科の学生と聞くとなんとなくスマートな感じがする。」であった。

海外体験の有無で海外体験ありのもの（389人），なしのもの（3200人）で反応を比べた。次にあげる８項目を除く全項目で海外体験ありのほうが，有意差ありで英語学習に対して好意的な反応を示した。２グループで有意差のでなかったものはＡ４「外国の書物はほとんど翻訳で読めるから，英語をやる必要はない。」，Ａ９「わが国の文化水準を考えれば，英語の勉強は不要である。」，Ａ12「英語は論理的な言葉なので，頭の訓練をするのに必要である。」，Ａ13「英語は将来必要だと思う人だけがやればよい。」，Ｂ３「英語ができるのは何となくカッコいいと思う。」，Ｂ５「英語を使うのは何となくきざっぽい感じがする。」，Ｂ７「英語ができれば，英語を知らない人に対して優越感をおぼえる。」Ｂ９「英文科の学生と聞くと何となくスマートな感じがする。」である。Ａ13「英語は将来必要だと思う人だけがやればよい。」で，海外体験の有無で差がでなかったことは示唆的であるように思える。

[1] 本稿は，広島大学教育学部英語教育研究室のメンバーで行われた共同研究の一部を報告するものであり，本稿の研究成果の功績は広島大学教育学部英語教育研究室に属する。

[2] 『日本教科教育学会研究紀要』に投稿予定。